

【特別記事】アンドレア・バッティストーニ『オテロ』を語る

バッティストーニ最愛のヴェルディ・オペラ『オテロ』(演奏会形式)続報! バッティストーニが語った わが愛する革命的オペラ『オテロ』の聴きどころ

香原斗志(オペラ評論家)

東京フィルの若き首席指揮者、アンドレア・バッティストーニがこの9月、シェイクスピアの悲劇を原作にしたヴェルディ晩年の傑作『オテロ』にいいよ挑む。バッティストーニが今回、『オテロ』を選んだのには理由がある。彼は人間ドラマが音楽によって掘り下げられた19世紀後半以降のオペラを好む。なかでも『オテロ』は、翻弄される人間の複雑で微妙な心理を、ダイナミックかつ緻密なオーケストレーションによって描きつくした究極の作品だが、その“偉大さ”は自ら指揮してこそ、日本の聴き手に伝えることができると信じているからだ。

では、バッティストーニが考える『オテロ』の魅力のツボはどこにあるのか。

「僕はこれまでヴェルディのオペラを数々指揮してきましたが、実は『オテロ』が一番好きなんです。美しく、完成度が高く、一昨年に東京フィルと演奏したプッチーニの『トゥーランドット』と並んで、あらゆるオペラのなかでも一番好きです。僕は革新的な作品を高く評価しますが、『オテロ』こそヴェルディにとっての大きな革命だったんですね」

“革新”や“革命”とはバッティストーニが、たとえばベートーヴェンを称揚するときにもよく使う言葉である。

「ヴェルディは『アイダ』で旧来の作品を集大成したあと、長く新しいオペラを書きませんでした。『オテロ』を作曲する決心をしたのは、台本作家のアッリーゴ・ボーイト(1842-1918)と出逢ったからです。実は、ボーイトは作曲家でもあって、ワーグナーの影響を受けて最先端の音楽を志し、苦味があるドイツ的な曲を書いた人です。ボーイトはヴェルディにすばらしい台本を与えると同時に、円熟したヴェルディをさらに先進的な音楽世界に導く役割を果たしたんです。その結果、物語と音楽が著しいまでに一致した傑作が生まれた。たとえば、ヤーゴが第2幕で『自分は神よりも悪魔を信じる』と、恐ろしい独白をしますが、これはシェイクスピアの原作にはなく、ボーイトの創作です」

とは言っても、むしろ、バッティストーニが強調するのは、結果として創造されたヴェルディの音楽、そして音楽劇の偉大さだ。「大事なのは、ヴェルディが管弦楽法や作劇法を大きく前進させながら、『オテロ』をシェイクスピアの原作を上回るほどの作品に仕上げってしまったという事実です。登場人物たちは人間心理の本質をととても深く表現している。心理的にきわめて鋭敏に描かれた現代的なオペラなのです。

主に描かれているのは、人間の恐ろしさや暴力や名誉。第1幕に美しい二重唱がありますが、『ラ・ボエーム』のそれとは違って、そこに人間精神を読むことができます。悲劇的な感覚に比べれば愛は二次的ですが、だからギリシャ悲劇のように、運命に翻弄される人間の小ささや愚かさが格調高く描かれるのです。僕がヴェルディのオペラのなかで最も愛する理由がわかりましたか?」

真鍋大度らによる最先端の映像演出も加わって、人間心理の深奥がどこまでも大

胆に、かつ格調高くえぐられることになりそうだ。



3月にBunkamuraオーチャードホールで行われた記者会見でも、『オテロ』について熱く語ったバッティストーニ。青少年のためのプログラム(9/9)も用意され、「若い人にもぜひオペラにふれてほしい」と語った(通訳=井内美香) ©上野隆文

香原斗志(かはら・とし)イタリア・オペラをはじめとする声楽作品を中心に取材および評論活動をし、音楽専門誌や公演プログラムなどに記事を執筆。声や歌唱表現の評価に定評がある。毎日新聞クラシック・ナビに「イタリア・オペラの楽しみ」を連載中。著書に『イタリアを旅する会話』。

アンドレア・バッティストーニ指揮 ヴェルディ:オペラ『オテロ』(演奏会形式)

日時 **9/8(金) 19:00開演**、**9/10(日) 15:00開演** Bunkamura オーチャードホール

指揮・演出 アンドレア・バッティストーニ(東京フィル首席指揮者)

映像演出 ライゾマテイクスリサーチ

出演 フランチェスコ・アニエレ(オテロ)、エレナ・モシク(デズデーモナ)、イヴァン・インヴェラデー(アイアゴ)、ジョン・ハオ(ロドヴィーコ)、新国立劇場合唱団、世田谷ジュニア合唱団 他

料金、問合せ先等詳細は本冊子背表紙をご覧ください。

好評発売中! バッティストーニが贈る・10代のためのオペラ演奏会形式 〈10代のためのプレミアム・コンサート はじめての演奏会オペラ〜イタリア・オペラ編〜〉

日時 **9/9(土) 15:30開演** Bunkamura オーチャードホール

指揮・お話し演出 アンドレア・バッティストーニ

映像演出とお話し 真鍋大度(ライゾマテイクスリサーチ)

ナビゲーター 朝岡 聡 管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団 他

曲目 ヴェルディ: オペラ『オテロ』よりハイライト、オペラ『椿姫』より「乾杯の歌」

プッチーニ: 『蝶々夫人』より「ある晴れた日に」

ロッシーニ: 『セヴィリアの理髪師』より「私は町のなんでも屋」 他

料金 10代(小学1年生〜19歳) S¥3,000、A¥1,500 保護者(10代の同伴者) S¥5,000、A¥3,000
大人のみ席 ¥7,000

問合せ Bunkamura チケットセンター03-3477-9999 (10:00〜17:30)